ドキュメンテーション報告

＜事務局＞

平成26年度
プロジェクト型保育推進事業
～保育の質の向上研修～
報告会

研修【ドキュメンテーション】報告

平成２７年２月２１日(土)
西駅交流センター

目　的

①保育の可視化
②保護者に伝える、知ってもらう
③子ども達が見て共有し、子どもも振り返る。
④他のクラスの保育士と共有し、自分の保育を振り返り、評価する。

～どんな写真～

◎子どもが対象にかかわる姿

◎子どもの手元をアップで

◎視線の先にあるものを

◎子どもが人とかかわる場面（多人数で話し合う、教え合う、工夫し合う場面…）

書き方の工夫

◎子どもの言葉を吹きだしに

◎クラスごとに用紙の色を決める

◎マジックの色で、子どもの言葉、ねらい、考察などをわける

◎時間軸を中心に時系列、カテゴリーごと、真中から広げるマトリックス・・・

～何を書くか？～

①子どもの会話と行動
◎事実（子どもの姿）と感想（保育士の思い込み）を混在させない。

②保育士のねらい、かかわり
◎保育士の育てたい力、願い、意図＝教育的意図
◎ねらいを達成するためのかかわり

③遊びの中の子どもの学び、育ち、気付き
◎子どもの年齢の発達の視点を持って

根拠となる事実を

①子どもの会話と行動

◎事実（子どもの姿）と感想（保育士の思い込み）を混在させない。

◎根拠となる子どもの姿や行動や言葉を書く

教育的意図

②保育士のねらい、かかわり

◎保育士の育てたい力、願い、意図＝教育的意図

◎ねらいを達成するためのかかわり

５領域と発達の視点を

③遊びの中の子どもの学び、育ち、気付き

◎子どもの年齢の発達の視点を持って

◎５領域とのかかわりを書く

大切にしたいこと

◎結果ではなく、過程＝**プロセス**を書く
※「できた、できない」にならないように配慮

◎きっかけ、起点を書く
※子どもの興味・関心から

プラスしたい要素

①時系列的要素
②発達的要素
③学びの軌跡
④育ちの見通し
⑤保育者の工夫
⑥５領域とのかかわり

保護者への伝え方

◎保育の中の学びや育ちを受け止める力を保護者にも育てていく必要がある。

◎支援される対象としてではなく、いっしょに保育、子育てしていく**パートナーとして**かかわっていく。

ドキュメンテーション　ライブ指導

＜東山保育園＞

ドキュメンテーション報告
東山保育園　　中西　和美、
山尾　美樹

この一年を通しての子どもたちの様子を説明させていただいてから、ドキュメンテーションを発表させていただきます。

春は、ふれあいあそびを通して信頼関係が築けたことで、安定した場所を見つけ様々なことに興味を持ち、声を出して笑顔で遊ぶ姿が見られるようになりました。

夏には、手で感触を楽しめるように風船、水、氷、スポンジ、保冷剤などたくさんの素材を用意すると、手だけでなく五感、全身を使って遊ぶ姿や感触を味わい楽しめるようになったので、子どもたちの好きな動作やより多くの興味・関心を持ってほしいという願いを込めた手作りのおもちゃをつくり、動くものを見たり、触れたり、追いかけたりすることや、指先をコントロールする姿が見られ、好奇心を持ち繰り返し同じ動作を夢中になって遊べるようになりました。

秋になると自然物に目を向けられるようになり、どんぐりや落ち葉に触れ、においや音を感じることを体験し、つまんだり拾ったりすることだけでなく、見つけて「あっ！」と声を発したり、物と名前が一致して「葉っぱ」と言いながら落ち葉を拾う姿が見られるようになり、言語力、好奇心、感性が豊かになりました。

感触遊びを繰り返している経験から、今では両手でつまむ、入れるなど手先を器用に使えるようになり、また自分たちが行ったことで、やった、できたという達成感や満足感が表情や声に表れるようになりました。

生活面では、ズボンの上げ下げなど自ら意欲的にしようとする姿を見ると、これまでの経験が自立へのきっかけになったと考えられます。そこから、子どもたちの触ってみたいと思える冬ならではのあそびを展開したものが「わあ！これなあに？」というドキュメンテーションです。

雪がたくさん降ったある日、雪というものを初めて見た子どもたちは、「これ、何？！」という驚きの表情でしたが、恐る恐る手を伸ばしてみる子や、その様子を後ろの方でこわごわ見ている子どもたちに分かれました。

冷たさに驚き、思わず手をひっこめたり、「なんやろな～」とじっと雪を見つめているうちに、雪に抵抗があった子も触っている友達や保育士の様子を見て、雪をつまんでは落とすを繰り返したり、足で踏む、手と手を合わせて雪が溶けていく不思議さを感じ、感触を確かめている姿が見られました。

終わってから窓のところでみんなぎゅうぎゅうになりながら、真っ白な雪景色を指さし「あれ！あれ！」と言葉を発している姿を見ると、それほどこの雪遊びが楽しかったのだなと実感しました。

月齢の小さい子では、2カ月から入園し、現在10カ月の子がいるのですが、夏には濡れタオルで冷たさを味わったり、スタンプや落ち葉など、いろんな素材に体中で触れている経験から、雪にもすぐ興味を示し、触ろうとする姿が見られまし

た。このことから、様々な素材に触れる経験を多く持つことで、何に対しても興味・関心を持ち、自ら意欲的に触れられるようになったのだと考えられます。

保護者からは、「いろんな経験をさせてもらい嬉しい」、「この年齢でこんなことができるんですね」という声をかけていただいています。

今までよりも、より一層、子どもたちの姿から見通しを持って保育することができ、一年を通して経験を積み重ね、意欲的に夢中になりながら遊んだり、様々な素材に敏感にならず触れてみようとする姿が少しずつ見られるようになったこと、保育士との信頼関係が土台となり安心した場所だからこそ触ってみよう、やってみようというスタートから今の意欲につながっているのだと、ドキュメンテーションを作成することによって分かります。

これからも子どもたちの姿をよく観察し、興味・関心を大切に自らやってみたいという意欲を高めていける保育を進めていきたいと思います。

＜講師：ライブ指導＞

東山保育園（0，1歳児）

・5月　「先生とお友だち」のテーマは良い。さらに考察で、この年齢のこの時期に、信頼関係をキーワードとする意味、それが指針に示されていること等添えると良い。

・7・8月　感覚遊びのテーマは時系列的にぴったりで良い。プラスして、安心安定が構築されたこの時期に五感をつかったあそびを保障することの重要性を伝える。何を教材として使ったかより、多様な経験を豊かにするために、教育的意図として、環境を通じた保育のために設営したことを伝えると良い。また、素材のちがいによって、何がちがうのか、単純→複雑・経験の質として、多様になるよう工夫していることなど遠慮せず書く。

・「できたよ！」の表現について
　行為そのものを問うのでなく、そのプロセスを大切にしているという事を伝える。
　例えば、つまむという行為ができた事プラス、どのような背景によってできたのか・・アプローチしたくなる環境、魅力的な色・素材の特徴やそれを準備した教育的意図を伝える。

・キーワードを抽出する時は、興味、行為、感情などカテゴリーの整理が必要。
・事実だけでなく「～の理由で～しました」「～によって～を学んだ」と構造的に書く。
　読手は素人であることを意識する。

感触あそび2
ももぐみ　0歳児
H26.8
絵の具・筆・スタンプ
スポンジ
ぬれタオル
片栗粉入り風船
水風船
ペットボトル・保冷剤

できたよ!!
ももぐみ 0歳児 H26.11
入れる
遊び
つまむ
ひっぱる
貼る
まるめる

＜中保育所＞

ドキュメンテーション報告
中保育所　壷内　由美子
山本　真梨子

先日2月14日に行いましたお楽しみ会、劇あそびに取り組んだ時のドキュメンテーションから、4歳児のものを出しております。

夏祭りの飾り作りから、おばけに興味をもち、おばけに関連した様々なあそび、絵本を楽しむ中で、興味・関心を高めていった子ども達。お楽しみ会では、その絵本の中でも、自由な発想が広がりやすい絵とフレーズで終わる『どろろん病院大いそがし』を劇発表にと決めました。当日までの流れ、ドキュメンテーションした内容については、お手元の資料をご覧ください。（※1）

今回は、3・4・5歳児、時系列のドキュメンテーションを一緒に玄関に貼り出しました。5領域の育ちに偏りを感じていたものの、振り返りができていないという反省をもとに、今回のドキュメンテーションでは、この活動がどの領域であるか？を明確にする為、領域別の矢印を貼り付けました。5領域をより意識し、保育ができるように感じます。取り組みがすすむにつれ、一枚ずつ増えていくドキュメンテーションに足を止めて下さる保護者の姿も見られました。発表会後のアンケートの中には、「どんな取り組みをしているのか、どうやってストーリーやセリフなどを考えたのか、衣装、小道具をどうやって作ったのかを、ドキュメンテーションで見ていたので、当日の子ども達の発表がより分かりやすかった」との感想に加え、他クラスのドキュメンテーションについての感想もありました。

3・4・5歳児を一緒に貼り出したことで、保護者・子ども共、自分のクラスだけでなく、他クラスの取り組みの様子も知る良い機会となったようです。

その反面、今回の劇遊びの取り組みを考えると、カテゴリー別に広がった活動・学びなどを、クラス毎により詳しく提示した方が、保護者にもより伝わりやすかったのではという反省も残りました。

また、伝えたい事の多さから、字数も多くなり、3クラスを一度に提示した事により、読みにくさを感じ「朝、夕、バタバタしてなかなか見れませんでした。」「文字が小さかったので、時間もなく、すべて見られませんでした。写真を大きめに、文字は少なめにしてもらえると、嬉しいです。」といった、意見もありました。

貼り出しのドキュメンテーション以外でも、保育所だより・クラスだよりや当日のナレーションで、今までの活動の様子、見所などを伝えたり、プログラムと共に、ストーリーの内容や子ども達の作った替え歌の歌詞を、一緒に配布したりもしました。

様々な方法を用い、子ども達の取り組みの姿を具体的に伝えていくことで、当日の発表がうまくできた、できなかったの結果だけでなく、それまでの過程を大切に感じ、成長を共に喜び、認めていただけたのではと感じます。

今回、5領域を意識したドキュメンテーションを取り組んだことで、保育内容の偏りに気付き、保育の進め方、事実の解釈など、保育を振り返る良い機会となりました。　また現在少しずつではありますが、5領域に加え、神戸大附属幼稚園の研修会で学んだ10視点及びその定義をドキュメンテーション考察の参考にさせていただいています。

今後も、日誌と併用するなど、時間の工夫をしながら、保育者の自己満足でなく、保護者に伝わりやすい、見やすい書き方の研究を進めていきたいと思います。

ドキュメンテーションの③番は、どろろん病院ごっこ遊びをする子どもの姿を見て、保育者も役になりきり、自由参加型の劇を楽しんでいる場面です。支援児も多いということもあり、お楽しみ会の劇について共通認識しやすいのではと、設けた相談の場です。

友達の言葉を聞くことで、ごっこ遊びから劇を意識してほしいという保育者の意図があったのですが、まだまだ子ども達の思いは高まっておらず、子ども達からの言葉が思ったほど出ませんでした。

もっと遊びを楽しんだあと、こういった相談の場を設けた方が子ども達からの言葉が多く出たのではと反省しました。　この他にも、保育者が子どもに投げかけるタイミングはとても難しく、保育を終えた後に後悔することも多くありました。

この反省をもとに、担任間で子どもの姿や思いを確認し合いながら、当日までの大まかな見通しについて再度担任会議をもちました。

しかし、保育者の環境設定や言葉がけの不十分さから、子ども達の表現方法の発想が広がらないことに加え、リハーサル経験後、お客さんを意識し、「恥ずかしい」と不安を感じる子も増えました。

劇の中で、子ども達がこだわったり楽しんでいるポイントが上手く表現できていない姿に悩み、焦りを感じる保育者との悪循環もあったように感じます。

そんな担任の悩みを、リハーサル反省の職員会議で他の保育者にも伝えると・・・

職員全員に悩みを共有してもらえ、子ども達の魅力を引き立てるためのアドバイスを受け、自らの保育を振り返り、改善することが出来ました。

先ほど主任も話しましたが、このドキュメンテーションの形にしたことで、職員全体で保育内容や子どもの育ちの認識ができ、相談する機会が増えたことも大きかったように思います。

また保護者にも、当日までの様子を伝える事ができ「道具作りに参加してたんですね」「自分達で歌も作ったんですね！家でも歌ってました」「そんなことも考えてしているんですね」とのご意見も頂きました。

行事当日の結果を意識しがちだった言葉も“子どもの成長”や“子ども達が作り上げたこと”“子どもが楽しんでいた部分”を意識した言葉に少しずつ変化し、そんな保護者の変化は、子どもの自己肯定感をも上げてくれたように思いました。

保護者に伝わりやすくという点では、まだまだ課題はあり、検討していきたいと思います。

※１　ドキュメンテーション概要

４歳児ゆり組お楽しみ会『どろろん病院大いそがし』

～ドキュメンテーション発表～１２月までの子どもの様子

・そもそもオバケへの興味のきっかけは、夏祭りの飾りつくり。去年の夏祭りでオバケ屋敷の印象が強く残っていた子どもたちでした。さらには、オバケ屋敷を自分たちで作って人を驚かせたいと思うほどになりました。その後もオバケの絵本紙芝居と興味や関心はつきることがありませんでした。出かけて散歩先で風が吹けば、『オバケの音や！』と感じ、動物の足跡やごみの跡から『オバケのパーテイがあったんや！』と想像し、友達とその世界をたのしんでいました。

①絵本を楽しみ物語の続きを想像する

子どもの姿	保育士のねらい・かかわり・こえかけ
・ラストのフレーズから、『河童が来る～』『お皿が割れてくる』『あそんどったら、木にぶつかることにする?』など、自分の思いをいったり、友達の言葉に自分の考えを伝えたりしている。 ↓ ・いつもの病院ごっこが、どろろん病院ごっこに変化	・子どもの好きな本の中で、自由な発想につながるフレーズと絵で終わる本を選ぶ ・友達の意見がクラス全体に伝わるように紙芝居を作る ・保育士の問いかけに答えることで物語を作り、子どもたちの会話が弾むと保育士の言葉を減らした。

②お話の世界を楽しむ

子どもの姿	保育士のねらい・かかわり・こえかけ
・どろろん病院ごっこを楽しむ中で足りないものや欲しいものが出てきた子どもたち。保育士と共にオバケ包帯やお化けノリ、ガイコツ作りを楽しみ、友達と役割分担して、さらにやり取りを楽しんでいる。	・一緒に、ごっこに必要なものを作って楽しむ中で、子ども同士が遊んだり、自由に表現する姿を観察し、さらに子どもの興味がどこにあるのかを探る。

③身体や言葉で表現する。

子どもの姿	保育士のねらい・かかわり・こえかけ
・出てくるオバケを言ったり、『ろくろっくびやりたい！』とステージで演じる中で、お化けの特徴や怪我の様子を友達と表現したり、友達のすることや考えたことも取り入れて楽しんで表現していた。 ・他の絵本の劇がしたい子、他のオバケの絵本のセリフが言いたい子が２人いた。	・ステージと座席を設定。子どもが作った小道具を置き、保育士が白衣を着て雰囲気作りを行う。 ・作った話を保育士がリードする役柄になり、子ども参加型の劇で見せる。 ・お楽しみ会の話をして何の劇にするか相談する場を設けた。

④お化けに大変身

子どもの姿	保育士のねらい・かかわり・こえかけ
・『俺たこ焼きマントマンするんやった。お面作ろ』とやりたい役のある子どもから衣装作りをはじめた。 ・衣装が出来ると、イメージもより深まり、オバケ同士の話ややり取りもなりきって遊びだした。	・子どもの頑張りややる気を認めながら、見せるということを意識できるように言葉がける。 ・オバケになりきるための身体表現を認め、保育士が言葉にして受け止めることで、自信と友達との共有につなげる。

⑤替え歌づくり

子どもの姿	保育士のねらい・かかわり・こえかけ
・「妖怪ウォッチもしたい。どろろん病院に来て欲しい」と一部の子が言っていた。 ・『なにそれ、おもろい』『もっと作りたい』と興味を示したり、自分のやりたい役の歌詞を考え、歌ったりしだした。 ・歌詞を作るが、歌ってみると合わないことに気づき、首をかしげている。保育士の歌を聞き、『それいい』と納得すると次のフレーズを考え、自分達でも言葉のリズムや組み合わせを工夫するようになった。	・妖怪ウォッチの歌のリズムで替え歌を作り、歌う。 ・子ども同士の声が聞きやすいよう、輪になって相談する。 ・子どもの考えた歌詞をもとに、言葉の組み合わせを変えたりリズムを変えたりして歌うことで、子どもが納得いくものを探る ・替え歌づくりに慣れてきたら、少人数のグループで考える方法をとり、話し合いに参加しやすい環境にし、作るという意識が持てるようにする。

⑥人形劇をみて…

⑦きく組（年少）の劇をみて、考える

⑧自分達でつくりたい

⑨役になりきって～ステージでやりたい～

子どもの姿	保育士のねらい・かかわり・こえかけ
・なりたい役の衣装を着て、ステージに向かう ・選んだオバケになりきって、絵本のセリフを言ったり、保育士の問いかけに自分の言葉で応えたりしている。 ・分かりやすくするためにはどうすればいいか考え、衣装や声の大きさを工夫した。	・役を固定せず、好きなオバケになって表現することや友達とやりとりすることを楽しめるようにする。 ・見に来ていた乳児さんに『聞こえるように』とお客さんを意識できるように言葉がける。

⑩セリフについて

⑪リハーサルをおえて

⑫「雪を作りたい」

⑬さくらさん（年長）からのアドバイス

＜講師：ライブ指導＞

・子どもの姿にもとづいてねらいを設定、日頃の姿から、なぜそれをするのかプロセスを時系列的に書くことは、分断された保育でなく保育の流れがわかるので良い。自明性、必然性が、子どもにも、保育士にも、保護者にもわかる。

しかし、時間と心の余裕がないと読めない。キーワードを要約すること、どれだけの保護者が、読めたかを検証することも大事。

・領域の偏りについて　1つの活動に、5領域すべて入っていなくても良い。バランスにこだわることない。入園から卒園までの間に育てると考える。あるけれど見とれていなかったり、本当は埋め込まれていることもある。

・ねらいについて

・・・子どもの姿を見たときその姿から、

1.抽出できる興味・関心

2. 課題、次はこう育ってほしい
この2つの視点をもつ。このねらいによって、どう言葉をかける？環境は？これが構造的にドキュメンテーションを書くということ。計画の段階で、子どもの姿の予測のストック、引き出しをもっておくことが大切。

・保護者への発信・・・保護者のコメントの中に、結果だけでなく、歌詞をつくった、道具を考えた子どもの工夫などのプロセスが出てきたら、ある意味成功だといえる。劇発表で、保護者に、物語をより物語らしく伝えることより、子どもが考える要素がどれだけ入っているかが重要である事、又これを、ほめるチャンスとしての項目として保護者に伝える。（子どもが自分で決めた、選んだ）
　子ども同士でつくった歌詞を伝える時、集団保育は、家庭保育を補うものでなく、子ども同士の相互作用によって、育ちあう場所であるということ、集団保育の醍醐味を知らせてほしい。

・チームとしての同僚の輪が大切。会議をする中で保育士自身が至らないと思っていることころも、管理職や同僚同士ほめ合うことで、自分以外の視点があることもわかり、スタッフ間の育ちにつながる。

＜各園ドキュメンテーションの掲示＞

会場には、研修事業の参加15園のドキュメンテーションを掲示し、他園のを見ることでお互いに学びあいました。